

妊娠、子育て・・・24時間のハードワークの中、一度もやめたいと思わなかつたのは、自分の好きな仕事だから。



招徳酒造株式会社 杜氏

おおつか まほ
大塚 真帆さん 1975年 神奈川県出身

京都大学大学院農学研究科で作物学を専攻。2000年、招徳酒造に入社し、05年ごろから同社で女性初の杜氏役に。杜氏として蔵人と酒造りを行なう傍ら、ボトルデザインも手掛け、日本酒の魅力をより多くの人に伝えるべく、日本酒本来のおいしさを追求し続ける。プライベートでは2人の子どものお母さん。酒造りと子育てを両立する。



簡単にいうと酒造りの計画をする責任者。仕込み量、材料の調達、役割など仕事の段取りをする。小さな酒蔵なので仕事は多岐に渡る。大きな会社と違い、酒造りの一生続けていきたい杜氏の仕事

京都大学農学部入学後は、勉強より作曲サークルの活動を楽しんだと話す大塚さん。将来のビジョンなく大学院に進んだ。修士1回生の後半になつてもまだ迷つていたとき、「酒造り」がピンときた。「酒造りしかないと」といそこの日から酒蔵を訪問して就職活動。しかし男の世界のハードルは高く1年が経つた。卒業2ヶ月前に招徳酒造の社長を紹介されて面接。分析を担当する女性の後任としてタイミングよく就職が決まり、蔵人としての一歩を踏み出した。

全体に関ることができ、やりがいがある。入社一年目は苦しかつた。分析の担当として仕事を引き継いだため、分析、事務処理、瓶詰と思つた仕事とは違つていた。女性だからかとあきらめかけた時、研究室の先輩の「自分が出来ること全部やつたのか」の言葉に奮い立つた。早朝3時に作業をする蔵人に貼りついて見学。横でメモを取り続けた一年目の酒造り。そして転機は訪れた。杜氏さんが引退、一年間の努力が認められた。今までの仕事を引き継ぎ、いつの間にか一日中蔵の中で過ごすようになつた。充実感があつた。肉体的にはしんどかつたが、やめたいとは一度も思わなかつた。妊娠してお腹が大きくなつても、周りの心配をよそに酒造りをしていた。一生続けていきたい仕事と巡り合えたと話す。

仕事の工夫と出産計画

入社時の酒造りは昔ながらのスタイルで24時間作業。妊娠や出産は無理だと思っていた。杜氏になつた時、社長と相談し、朝から夕方で終わる作業スタイルにした。8年前に同僚と結婚。その後、出産や育児もできるのではと思い、夏場の出産計画を立て、6歳の女子と4歳の男子の二人をもうけた。家の分担は夫と半分半分が

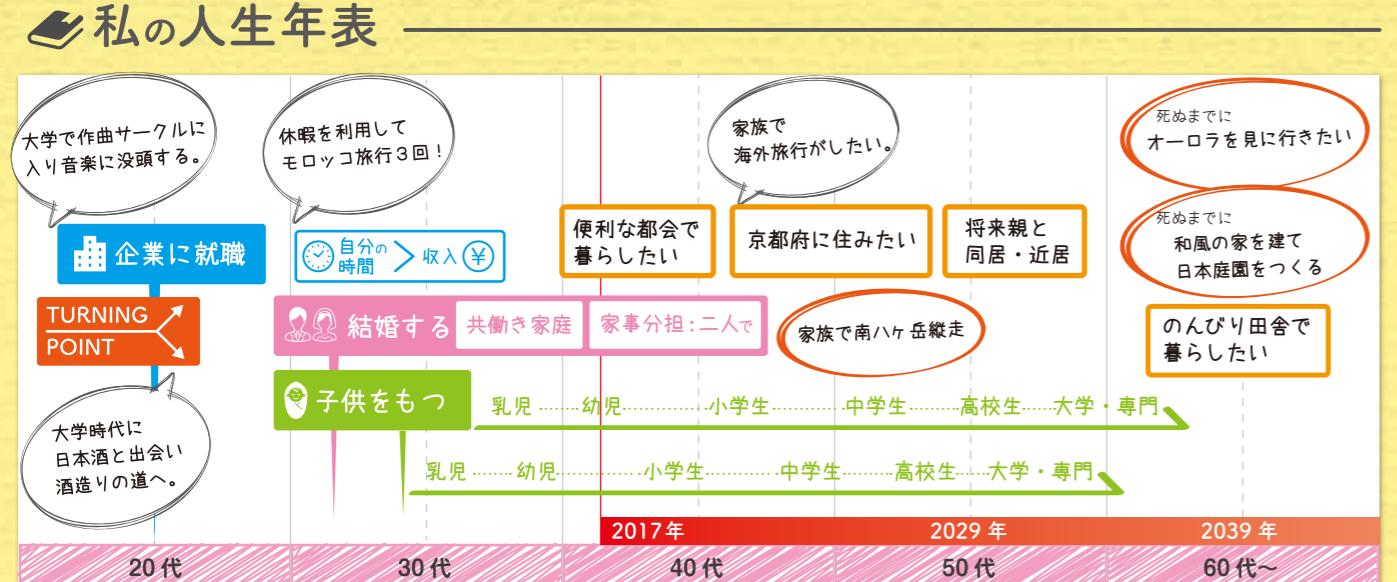
酒造りは技術者同士の交流が盛ん。蔵の見学も気軽にできる。みん。杜氏の見学も気軽にできる。み



目標。朝は夫の作業が始まるのが早いので大塚さんが保育園に連れていき、お迎えはいける方がいく。夫は仕事の大変さをわかつてるので、身近でフォローしてくれる。心強いし一番頼りになる。しかし、全てがわかっている分喧嘩の種も多く、よく喧嘩をすると笑う。

女性杜氏の子育て

子どもが生まれてからは音楽を聞いたり本を読んだりするといった自分の時間はなく、2、3年は大変だった。6歳と4歳になった今では時間的な余裕が少し出でた。だが、冬場は子供に負担をかけている。朝7時から夕方6時まで保育園での生活。下の子供は母親と長く離れると精神的に不安定になる。日曜日の作業はできるだけ子供と一緒に蔵の中を見せ、両親の仕事を見せてあげることで、今の忙しい状態を理解してくれている。子供たちは仕事の中身にも興味を持ってくれていて、家で酒造りを真似て遊んでいると微笑んだ。来年から上の子は小学生、PTAが大変そうだが、夫が嫌がらず子育てに参加してくれるのがありがたい。



今まで大切にしてきたことは?

- 自分の興味。音楽・バレエ・柔道などに打ち込んできた

今できることは?

- 子供達と山を歩いたり、旅行したり、色々な体験を共にすること。